

# ザ・パスポート

帰国者の裁判を考える会

東京都港区新橋2・8・16新橋石田ビル4階 救援連絡センター 気付 電話03(3591)13301  
郵便振替 東京2-398834 「帰国者の裁判を考える会」 定価2000円(送料72円)年12回分30000円



24

1992年1月12日発行



リッダ開戦は境地では「ディール・ヤシン作戦」と名づけられた。「ディール・ヤシン」とは何か。シオニストたちは、パレスチナの領土をパレスチナ住民を追い出すことによって奪つ計画を立てた。追放の最も手っ取り早い手段が、パレスチナ人民に対するテロであり、英國軍からも四八年以前はテロリストとして手配されていた者たちである)がエルサレム周辺のディール・ヤシン村を包囲し、女性、子ども、老人を含めて約五〇人を虐殺した。これが契機となって、シオニストによるテロが広がり、五月十四日までに約三〇万人のパレスチナ人が逃げ出し、その後の「第一次中東戦争」を契機で、シオニスト軍は国連のパレスチナ分割決議でアラブ側に分割された地域にも侵攻し、住民を威嚇し、四八年未までに何と九〇万人ものパレスチナ人を追い出した。ディール・ヤシン作戦は、パレスチナ人の銃剣と重鎌で踏みにじられた屠殺の歴史への回答であった。

裁判官諸君は(ついでに検事も)、米国メディアによるイラク軍のクウェート人に対する暴虐行為のフィルムを丁々で見ているだろうが、イスラエルによる暴虐行為はもっととさほほしいものである。残虐行為を大規模に組織的に行ったのがシオニストたちだ。八九年に行つたペイルート郊外のサブラキャンプ、シャティーラキャンプの虐殺は、シオニスト軍が包囲して左翼テロリストたちが數十人のパレスチナ人を虐殺した。病院にいた女性看護婦は強姦され殺されていた。このナチス頭脳の残虐行為を繰り返すイスラエルを積極的に支援してきたのが米国である。いわばリッダ開戦は、人民の抵抗権として、歴史的必然の戻いとしてあった。自民党政権や検察」とまさに非難されるいわれは全くない。

リッダ開戦を抱いた同志たちの話をしてもよしよしよ。

我々は学園や出版階級などでその人の権値を決めたりはしない。私自身は高卒だし、泉水同志は高校中退である。しかし、大卒で難関の司法試験に合格したエリートの裁判官、検事諸君は、どういう問題の立て方ができない。従つて諸君らの偏見観に合わせて話してもよい。戦死した岡平剛一同志は、岡山の高校を主席で卒業し、現役で京大一年生で一番合格した秀才(諸君らの語で言えば)であった。左翼にならなければ、彼は今頃、エリート技術者か管理者になっていたんだろう。しかし、彼は人々と共に生きる「人間を選び、被差別部落の人たちとの活動を始め、それから差別社会を無くす為、学生運動に参加するようになった。もう一人の安田安治同志は、三重県の太田木材商、山林地主の家に生まれ、彼もまた現役で合格したんだ。彼は休学して名古屋港で油井社として働くうちに社会の矛盾に悩んで感じ、大学に戻つて学生運動を始めるようになった。岡本公二同志は、熊本県の教育者の家に生れ、鹿児島大学に進学した。昔風に言えば、薩摩隼人のよくな人で、とてもまじめな青年であった。

パレスチナ人の話によれば、彼らはキャンプ地でも人々に優しく、皆に慕われていた。ある家族は、まだ少女の娘さんが彼らの為に貧しいながらも一生懸命にアラブ料理を用意したり、親父さんがいつも出がらしの紅茶を飲んでいる彼らを哀れに思い、毎日何回も腰

かくておいしいお茶の差入れに訪ねたり。彼らは諸君が描く「凶悪犯」とは対極の人々である。イスラムの世界では、適齋期前の中年さんでも、父親兄弟以外の男性の前に義顔をさらし、料理を届けることは、よほどの信頼関係がなければ父親が許すことは絶対にありえない。その家族は、リッダ開戦があり彼らがその戦士たちであることに気づいた時、泣きながら方聲を叫んだそうだ。パレスチナ人の心の中に、諸君が何と言おうとも、彼らは生き続けており、岡本同志は戦線に復帰した。イスラエルとPLOは何度かの捕虜交換の交渉の中で、常に岡本同志の名はパレスチナ側の交換要求リストの第一番目であった。外国人であるにもかかわらず、彼が解放された時の捕虜交換は、諸君の考えるような「人質交換」ではなく、ジュネーブ協定に準じ、国際赤十字、オーストリアなどの職員が訪ね手続きをしていた。諸君は彼がいかなる拷問を受けたか知っているのか。囚人の一人ひとりに殴打せたり、狂暴な炎の檻の中に押込んだり、夜も寝かせなかつたり、筆舌に尽くせないものがあった。精神に障害を与えたこともくわだてられ薬物投与もあつたが彼は耐えた。彼はあらゆる障害を乗り越え、生き抜いた。イスラエルの獄中では生き抜くことの無いのだ。

#### 四 日本に民主主義はあるのか

諸君は「民主主義を守れ」とか言つが、日本に守るべき民主主義があるのか。むしろ、我々こそが日本に本当の民主主義を守らなければ開いているのだ。

##### 1 「国民」を愚弄する自民党政権の反民主主義的政治

イラクのクウェート侵略を口実とした米帝の対イラク侵略戦争の時に、日本が示したものは一体、何だったのか。海部は最後まで「海湾戦争」を「平和回復活動」と言つてゐる、「海湾戦争対策本部」とすべきを、での坊の海部は「戦争」とは表現しないと、「海湾危機対策本部」の名で押しつけた。海部の大好きな米国での戦争を「戦争でない」と表現する者は皆無である。海部政権のこの態度は、「海外邦人の安全の保護活動」と称为して、侵略戦争をやつてきた大日本帝国と全く同じである。ちなみに、我々はイラクのクウェート侵略を支持しないと言つておる。諸君は米国の戦争を支持しない者に対しては必ずに「イラク支持者」というレッテルを貼る。我々はイラクを支持しているのではなく、米帝の中東侵略戦争に反対しているのである。

西獨の米英原発が爆発が心配が起きたが通産省は「事故を表現すると國民に不安を与える」として、「重大事象」という新語をつくった。しかもその事故の起因が日本のお家事 手抜き事 にあつた。事故を事象と言いつぶつぶつといふのが民主主義なのだ。

この七月、ロンドン・サミットの前に海部は説明した。コメの自由化の問題をめぐつて、自民党政権は部分自由化を決めておつとした。それに對し米国の要求は関税化による全面開放の要求であった。ブッシュ・海部会談の中でブッシュはそれを表明した。ところが海

部と外務省は「コメ問題は話のながった」とコメント。しかし、「の後で米国に事実を発表されてしまふ」と外務省は「実はコメ問題の話はあった」と曰狀。「これは今回だけではない。いつもそうだ。」これが民主主義か。

## 選舉制度の改善。もと前回述べた。「政権交代の可能性が強くなる」と表現された文句にあるが、実際は国民党独裁政治の恒久化を狙つたものである。

### 2 ヒロヒトの憲法違反

ヒロヒトの「侍従長」であった入江相政の日記について『月刊アサヒ』八月号にその特集が載っている。それによると、ヒロヒトは旧憲法の意義そのままに、田舎者「元首」と思ひ込んでいたことが良くわかる。言つてもなんへ、旧憲法での天皇は「國の元首」として統治権を掌握し」とあり、現憲法では「國政に関する機能は有しない」となつてゐる。ヒロヒトには、「の違いが理解できていなかつた（自民党もさうだが）。」日記によれば、ヒロヒトは田舎や中曾根の首相によると、内閣を好んだとある。七三年には防衛省長官の増原に、「國の守りは大事なので、田軍の悪いことは眞似せず、良い」とお取り入れてやつてほしい」と。国会での政治闘争の発現が問題になると、「英國では首相が毎週一回、クイーンに詔諭していると申せ」と長官の色を含むなど。天皇支持者増原はヒロヒトの意見を開いたとして辞任したが、ヒロヒトも象徴大皇帝を辞任すべきであつた。誰もほのヒロヒトの発言を止めようともいふのが、「田軍の悪いことは眞似する」に感動してゐるのではないか。もしそうだとすれば、現憲法を読み直していただきたい。

「日本問題はより分かつたが、（局長の話では）日本政府の対応が分からぬ。今、内大臣をつくらねばいけないか」と発言したとある。このような憲法違反の発言に対してヒロヒトは八年の間、日本経済関係の悪化の問題で外務省と局長の話を聞いたあと、「日本問題はより分かつたが、（局長の話では）日本政府の対応が分からぬ。今、内大臣をつくらねばいけないか」と発言したとある。」のよう憲法違反の発言に対して誰も心が痛まないのか。

### 3 経済も腐敗

経済は一流だが政治は「流」と言われてきた日本。しかし、「の間のバブル経済の破綻の中で出てきた問題は経済でも「流」である」と示してゐる。光進・国際航業事件、野村など四大證券による千数百億円ものぼる「損失補てん」、暴利団との深い関係。そして大蔵省との甘くて深い関係。ある米国のジャーナリストは、米国と同じことが起れば、大蔵省の役人も同じ場の中だ、と言つてゐる。これが日本の言つ「民主主義」なのか。もちろん、私は資本主義を擁護する立場はないが、現在の市場自由主義と云つのは、資本の自由競争の公平化を前提としている。米国では保護した資本主義国では、資本主義を守るために独占禁止法の強化、消費者利益の部分的擁護など、国家独立資本主義なりの資本主義の自律政策を必要としている。一七年のロシア革命によって、社会主義が登場して以降の二〇世紀の資本主義が延命する為の方法でもある。一九世紀の資本主義では革命が起るという教訓によつてゐる。しかし、日本は徹底した資本家、独立資本の利益の擁護が国民党の基本になつてゐる。一九世紀の資本主義の体質そのままで国民党独立資本主義が発達したのが現在の日本である。これが繁栄してゐるのは、「国民」の民主主義的意識の弱さ

故、國家権力が完全に独立資本の手中にいるからに他ならない。労働者の平均労働時間と比較してみよ。日本、一千百時間弱。歐米は千八百時間台。独立したては千七百時間台。それでも日本の労働者の生活水準が第二世界で高いのは、第三世界の収容の結果である。今回の「証券不祥事」をめぐって、野村証券の田淵会食は、国会の証人喚問に応じて、損害額について証言しても良いと言つてゐるのに、自民党は必死に国会証人喚問を避けようとしている。なぜなのか。日本は「超民主主義」は存在していない。

### 4 武器輸出と逆行

東西冷戦の終結によって、世界的には軍縮に向かつてゐる。軍事超大国のソ連はわざわざに「ソ連軍縮」を言ふないので、米国のマネをして、世界的に政策不安定があるなどと、う理屈を持ち出している。「これは「軍事防衛」のはずの自衛隊の海外派兵を勧奨したもののと見られる。スウェーデンの国際平和戦略研究所は日本の軍拡を名指して批判している。海部は「G7サミット」で、「武器輸出」を日本のキャッチフレーズとして持ち出した。しかし、世界第三位の軍事大国（NATO方式）に比べ、日本は米国、ソ連に次ぎ実はGDP 1%を越えてゐるの日本に武器輸出を認める資格はない。

「武器輸出」のギマン。武器生産国特に大蔵省は軍縮に躊躇しない。近作は武器生産の軍縮を実現するべきだ。近作は兵器の軍縮をやめるべきである。一昨年は、日本がイラクに次、世界第三位の武器輸入国であつたとする統計がある。すると、没落したイラクに代つて日本が世界第三位どころではないか。こんな勝手な理窟はない。日本が武器を輸入するのは良いが、第二世界の国がダメだと言つてゐるのである。

連中の言ふ「国際平和」というのは、「先進」資本主義圏に都合の良い秩序を守るのとであり、他の勢力の勃興を許さないといつてしかない。これが「平和」の論理ではなく、帝国主義の戦争の論理である。過去の戦争の歴史が示してゐるのではないか。戦争への道を開いている自民党的政治を民主主義と言つのか。

### 5 雷神音響岳の噴火

六月に四〇数人の人々が死し、マスクゴミ判決が高まった。確かにマスクゴミにも問題があつた。しかし、本質的な問題はそれではない。大公谷流の被災地域は、強制力のない避難勧告しか出でていなかつた。九大島原地震火山観測所や長崎県警が警戒区域への指定、立て入り禁止規制を申し入れていたにもかかわらず、島原市の当局が警戒していたからである。死者が出た大規模火山噴流の後でさうも警報してはいたのである。なぜか。警戒区域にすると市に住民の生活保障の義務があるからである。市の対応に問題はあるが、国の保障がないことが本質的な問題である。海部は何日も過ぎてから各競売會が続々と価格を訪問し

てたので、あわてて、これが大名行列で行つたが、数ヵ所の住民の避難場所を数分間ずつ見舞つただけで、特別法を約束しながら、他の開港に反対されて結局、何もせず、七月の下旬になって、噴煙遮蔽の教説として、中小企業に低利の融資を行つと表明したにすぎない。地方自治体もかせなので、行政権力、財政は中央が地方を支配しておきながら、県が臨時の避難施設を整備して、低額とはいえ、家賃を徴収するのである。要は不運だと諦め、皆さん、自分も頑張つたままで、といふことである。これが経済は一流と自慢している国の実態である。

火山、地震は自然現象であつて、人間にとっては災厄である。「これに市場原理など導入されてはだまらない。災害に対する貢献でなく、扶助でなければならぬ。一人百ドルあたり百千億ドルの米国の沿岸戦争費用を出すまい。一人百円あたり百千億円の災害補償は何の困難もない」竹下の人気とりの為のムダ金をばらまき、「フルサト創生」資金の三千数百万円の余裕があつてなせ、火山一つへいくの被害住民に対して援助できぬのか、これが自民党的主張する「自助」の論理である。これが民主主義なのか。

## 6 滲戦争の本質

自民党、財界、マスコミが一体となつたキャンペーン「国際憲章」論のさうがけとなつた「滲戦争」の本質を述べておこう。  
諸君(判事、検事)が聞き易いように私の言葉ではなし、米国の司法官僚フランク・ク

ラーク氏のインタビューを利用する(『週刊ポスト』九・一五・一四号)。  
「米国に率いられた多国籍軍のイラク爆撃は、イラク国民の生活水準を犠牲にする」とが狙いであつた。これはハーグ協定違反した「国際戦争犯罪」である。  
「この大規模な痛烈な暴力の行使」日本が荷担しなかつたことを、日本人は声を大にして世界に叫ぶべきだ」「実際には職務負担で荷担している」

「アメリカが国際紛争に介入する時は必ず、背後に大企業の利益が絡んでいるという事実を日本人は知らないのか。クウェートに石油がなければ、米政府は今回の紛争に介入していない。戦争が起るよう「イラクを爆撃する」と云ひなかつた」「イラクは弱回し撤退の意図を示していた。昨年八月下旬、ルメイラ油田の管理権と海への入口をめぐるなどを撤退する」と述べた。むろん米政府は嘘つた。今年の一月一日、イラクはもう何も要求せず撤退すると言つた。国連安理会が中東全域の大規模戦役を管理し、イスラエルとパレスチナ問題をどうあげて欲しいといふ希望のみを述べた。ブッシュはこれを歓迎した。ベーカーは受け入れても良いと言つたそうだ。米国民の三分の一ほどのイラクの申し込みが公表されていたなら、大賛成を表明したはず」「私はイラクがクウェートで行った侵略行為を過小評価しているのではない。けれどもフセインを悪魔化した米政府は、自貿は国連決議など無視して、パナマに侵攻し、四千人の死者を出しているではないか。国連法を踏みにじった代表が他国を批判する資格はない」

「(日本人は「日本叩き」に不安を持っているが、の質問に対して)それは日本人がも

つと積極的に世界中の国々を仲間にするべく勧めなければならない。沿岸戦争でも、戦争に参加しなかつた百二十余りの国々は日本の出方を自守つていて。イスラエルも参画していない。ドイツはNATOの加盟国としてNATOの範囲内の約束に従つたまでで、多国籍軍の一員ではない」

「沿岸戦争の前にフランスが調停に立ちあがつた時、日本が努力していたかどうかたろつか。日本が百千億ドルも取られたのは辛う苦しい限りです。なぜ日本は戦費として出したのか。戦後の構造を改めるのにのみ使つべく指示するにもできただはず」

以上である。日本の野党からフランク元司法官僚の方がしつかりしている。

さらに、インタビュアーの松原久子氏の紹介したヒトラーの言葉を示す。

「戦争を始める為には、それがいかに正義であるかという理由を、繰り返し述べねばならない。そして戦争を始めた以上は、とにかく勝たねばならない。一日勝つてしまえば、その闇いが正義であつたか否かを聞いて半数は「いい」(アドルフ・ヒトラー)

アドルフ・ヒトラーをフッシュにして、ともかく不忠議ではない。

## 7 誰が世界を未定義にしているのか

自民党政権、その道草と化した司法は、「国際社会に不安を与える」と我々を非難する。果たしてそつが。否である。

ソ連のイーシャチフによつて「帝國主義への投降」というマイナスのものであれ、「冷戦体制が終結した。冷戦はまだ続いているのではなく、終わつたのである。」これはフッシュも宣言してゐる。ところが世界の平和は乱れている。イラクがイラクではない。地域紛争を「国際紛争」としたのは米国であり、英國である。イラクがイスラム人民革命に敵対し、サウジ、クウェート、首脳国連邦の反動封閉の利害(イスラム革命に恐怖)を利用して、アライド対イランの戦争を始めた。イラクに積極的に支援したのは誰か、米国である。昨年八月のイラクのクウェート侵攻の前に米国がイラクに暗黙の了解を手えていたことが明らかとなつてゐる。米国が中東支配の野望を満たす為に对イラク戦争開始したのは前項にクラーク氏の言葉を紹介した通り。フッシュはイラクの降伏後、「これまでトマム後遺症から脱却した」と述べた。ここに連中の本音が表れている。米国に対峙するいかなる存在をも許さない、米国の価値観を他国、他国人間に押しつけることを連中は「正義」と称している。ヒトラーのように。

「新世界秩序の確立」とは米帝国主義の世界支配宣言でしかない。それは道徳する」とによつて日本は、帝國主義としての自らの基盤を確立しようとしている。米帝のグレナダ侵略。社会主义政権内部のクーデターが起り、新政権が樹立されたが、親米派としての米人たちには何の危険もなかつた。しかし、米帝はその親米派の保護を口実にクーデターは認めないとして侵略を行つた。クーデターを問題にするならその直前の政権を復活させるべきなのに、米帝はそれをつぶし、親米派を連れてきて、カーライ政権を樹立した。イラクのクウェート占領との違いがあるのか。

パナマ侵略も同じである。説明するのもバカバカしい。ノリエガ政権に問題があつたに

せよ、米国に何の権利があるのか。「正義」を名乗るのなら、なぜミランマー（ビルマ）の軍事政権を倒さないのか。

「清潔戦争」の次は何か。適当な口実を設けるか挑発を行い、リビア、キューバ、朝鮮などの反米進撃的諸国に対する侵略戦争である。ソ連のゴルバチョフ政権の東欧的意識を米国は待っているだけである。「改革」派と称するエリツィンなどの「走資」派政権が登場すると米帝は躊躇なく、キューバに侵攻するであろう。ゴルバチョフ政権が、キューバ、朝鮮の殖民化を画策しているが、政権の動機までは考へていないし、米帝の直接介入を望んでよい。しかし、中間派のゴルバチョフが去り、「改革」派が登場すれば、彼らも東欧諸国と同じくようすに米帝への追従を離脱するのは明白であり、その時、米帝にとつては障害物は何もない。この間、米帝が何を聞いているのは、米国や日本政府ではなく我々である。

### 8 日本が直面する危機

日本は今後、他帝国主義諸国との矛盾、第一世界との矛盾に直面するであろう。

米国の民主院議会、共和党政府の両陣営からの対日批判、仏の対日批判などによつて、日本の不公正な経済システムが大きく問われている。説明するまでもない。

ソ連という帝国主義者にとっての共通の敵がほぼ消滅しつつある今、矛盾的主要な側面は帝國主義諸国内の矛盾として深化する。半世紀以前のように、米帝の圧倒的軍事優位の下では、戦争という形でほとんど行ひえないとしても、世界を混乱させる深刻な経済戦争の形をとる可能性は拡大している。第二次世界大戦の南北世界の不均等は帝國主義諸国との均等発展の阻害要因であり、帝國主義者それぞれが世界共通の利益に立てる以上、帝國主義間の矛盾は深化せざるを得ない。九年にはECAが統合され、米国も又、米国経済圏の構築が必然であり、プロック化は加速的に進行するであろう。それでは、日本がアジア経済圏、共同体を形成できるか、否である。円は表面的に強いとはいえ、未だに反日帝國は決して小説の世界ではない。

他方、日本と第三世界との矛盾も深刻化するだろう。日米経済摩擦と同じように、台湾、南朝鮮（韓国）、東南アジア諸国との間に生じるであろうし、五〇年代から七〇年代にかけて活発になつた反米闘争のように九〇年代は反日闘争が広がるであろう。その一つの徵候が、この間、ペルーで起つてゐる反日帝のゲリラ活動である。

ペルーで日本の政府開発援助（JICA）（日本国開発協力事業団）の農業技術者二名がペルーの革命勢力に射殺された。我々は無差別攻撃（なる極左組織は支持しないが）日本の公安当局が捕ら日本赤軍像と実際の我々は異なる）、今回のJICAメンバーに対する攻撃は、決して無差別とは言えない。日本側に狙われる」との見解が欠けていいる。ペルーの革命勢力による反日帝武装闘争を支持する（自衛選定において情事判断を求めるが）、日本は日本アジモリ大統領の就任二周年を祝つたものと信じ込みたいようだが、象徴

的にはそのような現象があるとして、基本的には、日本の海外侵略（經濟的だが、破壊力は中途半端ではない）に対する反感が生じてゐる。「なぜ日本人を」と感情的に叫ぶ前に、理性的に組われる理由を考えるべきだ。ここ数年、「IMF暴動」が第三世界の各地で起つてゐるが（東欧でも数年以内に起ると予言しておこう）、これはIMFと世界銀行が各国に住民を犠牲とした上で引継の政策を強制していることが原因となっている。第三世界の貧困は第三世界に根柢があるのである。帝國主義諸国の中植民地主義的支持、従わない國への経済的封鎖などによっている。この IMF、世界銀行の核になつてゐるのが日本である。レーガン・サッチャーの影響を受け、世界に「自効」努力を始めたのが日本である。日本政府の機関（JICAは日本の戦略援助の最先端である）、企業が攻撃対象になるのは必然である。日本が経済的影響力を拡大すればするほど、かつての反米闘争の高まりのよつて反日闘争が高まるだろう。この際、多くの日本人が日本人であるという理由で、反日闘争に巻き込まれざるをえないだろう（ペルーではアーリー側に近いはずの旧赤軍派の若宮同志も立場としてではなく、日本人であるという理由で巻き込まれ犠牲になった）。我々は日本人であるからといって理由で日本人を無差別に攻撃する」とは絶対にないが（敵の攻撃を受けやむを得ず巻き込んでしまは）、とはあるかも知れないが）、第二世界人民の日本に対する怒りから生じる反日闘争は堅持する。（JICAの件で補足しておく。JICAの直接の派遣員にしても現地住民の急と信している人も多いだろう。今回の犠牲者がそのような人であれば、確かに氣の毒ではある。しかし、日本の國家機関から派遣されている以上、一人の調査委員館住民といふ人として見られない、言わば、彼らは國の身代りになつたのである。中には米国の大蔵省のようだ、JICA派遣員を表した情報關係の人間も混じつている。この連中の場合は、自業自得と言つべきであつた。スパイなのだから。昨年、フィリピンで日本のオイスカ財團の日本人が拘束され拘束されたことがあつた。オイスカ財團は反共諜諭團体としてあり、フィリピンの対共産政策に沿つて活動している以上、狙われるのは当然であった。我々は「反日」ではなく「反日帝」だが、第三世界人民が反日闘争として決起するのは支持する。日本の企業、日本人が海外で何をしてきたか。その報いを受けるのは当然である。）

日本はこの事態に対してもどのように対応するのか。日本の帝國主義的やり方を変え、非同盟主の國として人民の側に立つか、それとも戦前のよつて「赤旗憲憲、邦人保護」として、現地政府への軍事的肩入れあるいは海外派兵にまぎ進むのか、その進路が問われている。

我々が建設しようとしている日本は、非同盟主、平和共存、民族平等互恵、眞の民主主義の人民権力の国である。

以上

# ロシア十月革命74周年を迎えて

1991年11月7日

日本赤軍 丸岡 修

十月革命74周年を前に、現代修正主義者と走資派によって、ソ連邦共産党は完全に解体された。また、これは党の革命を忘れたソ連共産党自身の誤りの積み重ねの結果でもあった。

この八月政変を、帝国主義者とブルジョアマスコミは「八月革命」と称し、「世界が民主主義に向かう歴史の転換点」とわめいている。日本の左翼の中には、一方では、ソ連共産党の解散を「もろ手を上げて歓迎する」とした傾向と、他方では、「レーニン主義の破綻」としてMし主義に確信を失う傾向がある。はたして十月革命はソ連邦の解体によって破綻したのか。否である。十月革命において、ボルシェビキとソビエト人民が実現しようとしたことが破綻したのではなく、プロレタリア独裁を党と官僚の独裁にすり替えたソ連型社会主義が破綻したのである。スターリン主義的無謬の党の敗北である。

社会主義の本質的特徴は、人民主権と徹底した民主主義である。革命と社会主義建設の主人公は人民であるのに、ソ連型社会主義諸国ではそうではなかった。人民に対する支配の道具に化した党と国家が人民の打倒対象にまで堕落するのは当然の既決である。

しかし、この崩壊を我々日本の革命家が、スターリン主義の崩壊と第三者的に喜んで良いのだろうか。非スターリン主義者であれ、反スターリン主義者であれ、そしてスターリン擁護者であれ、ソ連型社会主義の崩壊を味方勢力の崩壊として内在的にとらえるべきである。また、人民の側からみた場合、日本の共産主義者も他人事として避けて通ることはできない。ソ連邦の正負の教訓を導き出してこそ、我々の闘いを発展させることができる。

階級闘争の歴史は、進歩と後退を繰り返しながら確実に進歩してきた。これからもそうである。歴史の転換点とは、ソ連型社会主義の崩壊を指すのではなく、資本主義から社会主義への過渡期を指すのである。ソ連・東欧人民の官僚独裁に対する否定の闘いは、人民の闘いの時代を示している。官僚主義的党の誤りの結果として、資本主義への幻想が拡大しているが、人民が眞の主権と民主主義の徹底を求める時、それこそが社会主義革命として発展する。

ロシア社会主義革命の第一幕は確かに降りた。しかし、これは世界社会主義革命の陰幕にすぎない。第二幕を我々の手で上げようではないか。

他方、国際階級闘争においては、困難な時代を迎えている。ソ連・東欧社会主義諸国の存在は、客観的にはアメ帝を中心としていた世界帝国主義の抑止力としてあったが故に、それが解体した今、帝国主義の世界支配の脅威が増大している。アメ帝の唱える「新世界秩序」とは、米帝による世界一元支配に他ならない。ソ連の投降によって、キューバ、朝鮮、リビアなどの反帝社会主義諸国、進歩的民族主義諸国は、アメ帝の露骨な侵略の脅威にさらされ、第三世界人民の解放と革命を求める闘いも、帝国主義の暴力的抑圧の脅威にさらされている。

ブルジョア・マスコミは、冷戦が終結して「平和の時代」になったと言っているが、実際は「侵略と戦争の時代」に入った。五〇年代から七〇年代の世界的な民族独立と革命の時代に守勢にあつた帝国主義の反攻の時代を迎えている。この時代ほど、帝国主義本国内人民の自国帝国主義打倒の闘いと第三世界人民と連帯した闘いが問われている時代はない。プロレタリア国際主義の闘いと国際戦線構築の闘いを実現しよう。

☆☆☆☆☆

☆  
☆  
☆  
☆

「公文書祭ナシボのもんじや」

著者 丸岡修

発行 新泉社

☆  
☆  
☆

☆☆☆☆☆

# 丁氏への手紙

桂啓

初めて手紙を書かせていただきます。

私は東京拘置所に在監中の丸岡修という者です。

三年前の七月に、面識のないTさんから「弁当を差し入れていただきました。そのお礼を述べないままに三年が過ぎてしまいました。実は、この夏までは、検察の求めに裁判所が応じ「接見禁止」の処置を受け、弁護人以外との通信、印刷物の受け取り、面会の全てを禁止されていました。これは私の弁解になりますが、いずれにせよ、札儀を失したことは深くお詫びします。

現在は「接見」解除になり、通信、面会等は自由にならました。すでに二年が過ぎてしまい、「この手紙が届くが届かないが不文ではあります、東河の差入れ用紙にあった住所に送りさせていただきます。

一九九一年九月三〇日

丸岡 修

敬賀

誠に失礼な話なのですが、私は丁さんを差し上げておつません。もし、お許しいただけるなら、丁さん自身のことをお聞かせ願いないでしょうか。

実は、三年前に弁護人を通して獄外の方に是非、丁さんにお話を伝達してほしいと頼したのですが、私の支援の体制が十分になく、放棄されていたかも知れません。重ね重ね、本当に失礼しました。  
差し入れていただいた弁当は、いわゆる幕の内風のものですが、この監獄で奥いメシを毎日食う中では、何よりも最高のことをうなづいた。本当にありがとうございました。  
丁さんがどのようなことをなさっているのか全く存じあげていませんが、お仕事における発展とい健勝であることを祈っています。

ドーン、ドン、ド、ドーン  
砲声が鳴りやまない  
突如、キーン  
「あっ、あれは」  
「飛行機だ、伏せろ！」  
ドカーン  
伏せると同時に大きな爆発音  
窓ガラスがスローモーション映画のように  
はじけ飛ぶ  
しかし、これは映画ではない  
地区に一瞬の静寂  
「この建物ではなかったな」  
表に出る  
ガレキに哨煙がたちのぼる  
肉片が散らばっている、血のにおい  
かすかぬめき声と子どもの泣き声  
母が死に、父が死に、  
娘が死に、息子が死ぬ  
毎日、この繰り返し  
イスラエル国防軍の声明、  
「パレスチナテロリストの軍事基地を爆撃、  
テロリスト多数を殺す」  
「ピンポイント爆撃は民間人を殺さない」  
だと、  
帝国主義者、シオニストの目標は  
無差別なのに  
今日も日本の新聞の片スミに、  
「イスラエル空軍がレバノンの  
パレスチナ軍事基地を爆撃」、  
「イスラエル空軍がレバノンの  
シーア派拠点を爆撃」、  
「ゲリラ五人が死亡」  
  
——アメリカとイスラエルはまだ気づかない。  
一人を殺せば二人立ち上がるのを ——

91.8.6 ヒロシマデーに

丸岡 修

## 更新手続に伴う意見陳述

丸岡 修

### 第一　一章

#### (四) 東拘での処遇について

裁判官諸君、あなた方は東拘でどのようないどい処遇が行われているか、ご存じですか。一度は入ってみると良い。

##### ① 自殺房。

東拘では「第二種独居」と呼ばれているように、元来の独居の質を意図的に「自殺防止」を口実に落とし、実際には精神的苦痛を加えて自殺を促進させようとするものであり、懲罰的効果を与える為に作られたものである。ところがここに左翼政治犯は無条件に放り込まれる。ほとんどの一般囚は雑居や「第一種」に入れられる。「第二種」は彼らや既決囚たちの懲罰房にもなっており、すなわち、政治犯はいきなり恒常に懲罰房に放り込まれるのである。それは差別待遇そのものであり、国連の人権規約に反している。東拘では収容者は四種類に分けられている。既決、未決、外国人、公安事犯と。わざわざ左翼政治犯だけ区別しているのである。検察、警察は「左翼は政治犯ではない、刑事犯だ」と主張する。ところが東拘では「刑事犯」とは区別し「公安事犯」と言うのである。いわゆる発展途上国を含めて世界には「政治犯」の規定が存在する。それは「刑事犯」と区別し、「政治犯」にはより市民社会に近い条件を与えれる為に区別されているのであって（もちろん「政治犯」も「刑事犯」

「も人格に違いはない）、日本の監獄のように劣悪な条件に置く為ではない。自殺房では「第一種」と違い、アクリル窓が開かず、窓が開く側（要は引き違い窓で片方が完全固定）には鉄板がはめ込まれ、直径四ミリの円状の穴があるだけの金網よりもひどいもので、ホースでつまみを押し続けて水を出すようになっている。普通房ではある棚、もの干し用のヒモもなし。食事の出し入れは、普通房では通路側の窓を自分で上げ降ろし（上下スライド式）ができるが、自殺房の場合は開口部に鉄板がはめ込まれ、出し入れ口は自分では開けられないようになっている。外側、通路側の窓が鉄板で閉鎖されている（鉄板の面積に占める穴の割合は $2\pi/15$ つまり約四二%）為に空気の流通は悪く、房内を掃くといつまでもチリが舞つており、喘息の人にはとても耐えられる所ではない。空気流通穴の面積は実質外側約〇・一二平方メートル、通路側約〇・〇二平方メートル（例えると実質、三〇センチ×四〇センチの窓と一〇センチ×二〇センチの口しかないということ）しかない。窓としても大きさはそれぞれ約六〇センチ×一二〇センチ、約六〇センチ×七五センチは一応あり、この数値をもつて当局は近代的な監獄と誇るのである。もちろんちらの窓の外にも太い鉄格子がある。「自殺防止房」が左翼政治犯に使用され、自殺の可能性が最もある一般囚（汚職などの子役人、家族を殺してしまった人など）を普通の房に入れる為に、毎年のように自殺者が東拘で発生している。新聞報道にあるように、ただし獄中では検閲の為にそれを読むことができない。ちなみに自殺房の広さは一六五センチ×三一五センチ（約五・二平方メートルなので一・五坪）。この中に寸足らずの古畳が二枚、洗面台と洋式便器がある。この自殺房には、「死刑もしくは無期相当の事件」で起訴された一般囚も放り込まれます。これでは、判決までは無罪とみなされる「推定無罪」の原則に反します。

② 検閲。検閲は通常の収容者よりも長くかかっている。例えば書籍購入は月曜日に申し込むのが通常はその週の金曜日に渡される。ところが私の場合は、月曜日発行の週刊誌であっても翌週の月曜日に渡される。他の獄中者が捨てる頃に受け取るのである。同じ価格なのに、なぜ日数がかかるのかと当局に問い合わせると「君の場合は上の決済がいる」とことであった。上とは誰なのか、なぜより多くの検閲を受けねばならないのか、弁護人からの差し入れ書籍、パンフも早い場合で五日間、ひどい時には平気で十日間になる。

それが例え誰が見てもわかる訴訟資料でさえも、黙つていると平気で五日間位検閲にかけている。東拘の小役人だけでこのような嫌がらせをやつしているとは思えない。彼らは上からの指示に従つているだけだ。誰が一体、「このような指示を出しているのか。

③ 手紙のコピー。私からの手紙、私宛の手紙、それらの全てがコピーされている。何の為にコピーを取るのか。他の獄中者の通信は要点をメモしているだけではないのか。一体、誰にコピーを回しているのか。公安警察や検察にコピーを渡しているのではないのか。なぜこのような無法なことを平気で行なうのか。監獄であるから、それが当然だとは言わないが、検閲するなどとは言わない。しかし、本来は弁護人との通信は検閲してはならない。それなのになぜコピーまでとるのか。それだけではない。一度は弁護人からの手紙（訴訟上の連絡事項として明らかなもの）の一部が無断で完全に抹消されていた。これは重大な訴訟妨害である。

④ 獄中者に対する暴行。一昨年のことである。何舍の何階とその場所は言えないが（言うと私の位置を明かすことになり、房を強制的に移動させられるので）、向いの獄舎で一看守が一人の既囚に暴行しているのを目撃した。その看守は通路に一人の獄中者を立たせ、自分は上着を脱ぎ、一発、二発と六発以上、拳でヤクザも顔負けの言辞を吐きながら殴つたのである。他にもう一人看守はいたが、止めようともせず、ただ見ているだけであった。獄中者の抵

抗があつてやむを得ず暴力沙汰になつたのではない。まさに軍隊映画の如く、直立不動で立たせて殴つたのであり、明らかに違法行為である。私は管理職職員に面接し、事實関係の確認と「一度」というような行為の起こらないよう（看守が暴行を起さないよう）善処を要求した。当局の回答は、「看守の暴行は一切認めていない。事實関係は調べる。二度と起こらないようにする」とあつたので（意外にも）、一応は納得した。事實、暴行は私の目の見える範囲内では起こっていない。しかし、看守たちによる相変わらずの暴言、威嚇言辞はどどまるところを知らない。ムチを持っていないだけで、扱いは動物以下である。ちなみにその暴行事件を巡閲官（法務省）に調査と善処を申し入れたところ、返事はわかりました。しかし、あなた自身の利益には関係ないので、（待遇変更の要求として）受理しません」とのこと。その回答は予想どおりだったので、「既決囚は監獄当局の報復を恐れているので、巡閲官面接を申請していないだろう。しかし、こういう事実があるのを把握しておくように」と通告するなどめた。巡閲官は聞きおくこと（要はそれで終りということ）。これが巡閲官制度の実態でもある。

⑤ 房内ラジオ放送・毎日午後五時から九時まで（他に午前、午後三十分づつ、毎に十分の録音ニュース）、当局選定ラジオ番組あるいはその録音が流されている。休日は、午前九時から十一時、十二時十五分から午後四時もある。獄中者に人気のあるラジオ放送に毎週日曜日午後五時半からの文化放送「あつ子と貢の言い過ぎたらゴメン」があった。ところがある気の回らない（それも仕方ないが）獄中者（東拘）が投書してその中で「この番組は関東一円の人が聞いている。流されている刑務所は、東拘、府中、埼玉、横浜……」などとなっていた。昨年十一月のことである。案の定、次の週からFM東京の音楽番組に変えられてしまった。度々、獄中者の投書が取り上げられていた番組ではあつたが、一人がどの刑務所で受信できるか書いてしまった為に、矯正局関東管区の指示で簡単に所内放送中止になつたのである。確かに管理者の論理から言えば「

	米の一般刑務所	マリオン連邦刑務所	東京拘置所
監房外に出られる時間	一四～一六時間／日	一時間／日	なし
レクリエーションの時間	少々とも五時間／日	週末なら一日中、他の日でも最低三時間	週一～週日 10月～12月 十曜閉所
中庭に出られる時間	週末なら一日中、他の日でも最低三時間	週日、一時間ずつ	なし
売店	コンビニエンスストア並み	一定の品物を房に配達	一定の品物を房に配達
房内油絵	許可	認められる	認められる
房内での編物	許可	制限あり	禁止
テレビ	共用区域にカラーテレビ、一日6時間視聴可	房内に黑白テレビ	禁止
食事	大食堂でピュッフェ方式、おかわり自由	決められた量を房内で、おかわり自由	なし
		決められた量を房内で、三百数十円（二日三食当たり）のメシ	（二日三食当たり）のメシ

実にまずい番組』であろうが、どこそこの刑務所で聞いているのがわかつて、何の不都合があるのか。この放送を通して、関東一円の刑務所で暴動を呼びかけられると思っているのか。実にバカげた子役人の発想である。獄中者の数少ない楽しみも非情な一片の通達で平気に中止になるし、ニュースと言えば、半日前のニュースが録音で流されるだけ。番組の選択の自由もない。評判の悪い米国の刑務所でさえ各人がラジカセを持っているし、ここまで番組統制が行なわれている国はそれほど多くないであろう。日本語のわかる獄中者はまだ良い。しかし外国人の場合は正に地獄の日々である。ここまで未決囚の者（既決もそうだが）に対して情報コントロールする権限は刑務所当局には本来ないはずである。

## ⑥

例をあげれば、以上だけでなく限りなくあります。監獄で

の獄中者に対する処遇は、改善されるどころか年々、矯正局の専横さが増し、各刑務所、拘置所長、その下の保安課長らの裁量権が拡大され、ますます悪化しています。死刑囚たちの接見交通権が奪われたり、新聞の差入れと宅下げを禁じたり、外國語書籍差入れの高い翻訳料で実質的に禁止したりと、とどまるところを知りません。

このような牢番役人たちの権力乱用は、とりもなおさず検察の指示であり、数々の監獄処遇に関する訴訟で大幅に連中の「裁量権」を認めている裁判所にその責任があります。

獄中者全体に対しての処遇悪化はさらることながら、政治犯に対する処遇は更に劣悪なものになっています。民主主義の発達している国では、「政治犯」は政治目的による「犯罪」として、政治活動妨害にならない程度の勾留とされており、外部との通信、監房内で

# 公判日程

丸岡氏 東京地裁

1月28日 午前10時～

泉水氏 東京高裁

2月18日 午後1時半～

## 本誌22号の訂正

- ① P6下段14L 党が人民が→  
党が人民の
- ② P7下段5L これどころか  
→それどころか
- ③ P8上段28L インドシアナ  
→インドシナ
- ④ P8上段31L 魚夫の利→漁  
夫の利
- ⑤ P9下段4L 南アフリカ政  
權がブッシュ政權の一南アフ  
リカ政權やブッシュ政權との
- ⑥ P11上段21L 求める→認め  
る

☆丸岡氏への国による

☆損害賠償請求事件に

☆東京地裁が却下判決

12月17日、東京地裁は国の控訴を「不適法」として却下しました。次号は、今回の訴訟関係、および、泉水氏の控訴趣意書抜粋を掲載します。（「婦人の裁判を考える会」）

のタイプライタリ、TV・ラジオの自由聴取などが完全に認められています。そして「人権としては「政治犯」も「刑事犯」も全く差別なく認められています。そして「人権としては「犯罪」の質が違うとして、「政治犯によりました市民社会に近い条件を与えているだけです。ところが日本では、「最も悪質な犯罪は「殺人や麻薬中毒ではなく、「公安事犯」である」「某警察署長インタビュー」となっています。警察幹部の誰にきいてもそう答えるはずです。過激派に「人権なし」が最も貫徹されているのが日本の監獄です。一般獄中者の人権が全く認められていない所で、更に認められないとすれば、「どんな所か想像できるでしょう?」なるのが、実力派大判決です。

⑦ 最後に日本と米国の監獄の違いについて述べておきまじよう。米国のマリオン連邦刑務所は、「米政府を本当に怒らせる」とどうなるか、「それを見せつける」最も嚴重で劣悪な所で、「マリオン」のために他の刑務所も抑圧的になりつつある」と言われる第六級（最嚴重）刑務所です。それと本來、判決までの「無罪の推定」を原則として身柄を拘置するだけでできるだけ市民社会の権利が保障されるべき「未決囚」を収容する東拘と比べると、その差に驚くばかり

前記・表は「ニューズウイーク日本語版「九〇・二・八号」の表に東拘の状況を加えたもの。

更に述いを付記すると、ラジカセ房内許可に対して日本は全面禁止の十五分内の入浴。マリオンの中でも最も厳しい政治犯、スパイなどの独房は、広さ二十平方米、房内に一九インチカラーテレビ、シャワー、タイプライタ付き。共同スペースにはビリヤード、図書室がある。東拘と雲泥の差があるが、いかに日本の監獄制度が封建時代のそれであるかを示しています。

裁判官諸君、検察官諸君、十日間でも良いから体験投獄されてみなさい。諸君らの言う「公安事犯」と同じ扱いで、「犯罪者は人間性を喪失している」と世間は言いますが、「人間性を戻そうとするなら、ケダモノの扱いをするのではなく、「人間らしい扱いをすべきです。人権思想なくして民主主義は存在できません。